

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0174700989), 法人名 (社会福祉法人池田光寿会), 事業所名 (グループホームきよみ I), 所在地 (中川郡池田町西2条10丁目2番地20), 自己評価作成日 (平成30年10月25日), 評価結果市町村受理日 (平成30年12月10日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigvosvoCd=0174700989-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年11月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 静かで自然に恵まれて 四季折々を感じ桜から紅葉、木々や山々を眺めゆったりと暮らしていただける。近くの保育園の園児の声や列車の通る景色や音でほのぼのとしています。園児たちも 散歩の途中で遊びに寄って来て 利用者様の笑顔は格別です。法人の中も連携が取れていて非常時の助け合いや 地域の行事にも参加させて頂き交流しています。
2. 職員達のスキルアップのため できる限り研修に参加してもらい勉強しているところです。
3. 地域の色々な方にボランティア レクに来て頂き 馴染みの方もいらっしやって皆さん楽しみにされています。
4. 自分らしい生活という理念より 好きな物を美味しく食べれるよう 食前の口の体操、食後の口腔ケアをしっかり行える。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内中心部も近く、福祉施設等が多く点在する閑静な住宅地の一角に立地している。同じ敷地内には特別養護老人ホーム(以下特養)とユニット型特養、デイサービス、小規模多機能事業所、保育園(母体が児童養護を目的として始動した経緯がある)が活動を展開しており、母体法人は池田町の介護を含めた福祉事業を担う事業体として事業を進めている。当事業所の優れている点は、カンファレンスを中心とした介護の取り組みを挙げたい。管理者や職員は常に一人ひとりの介護計画を理解し、持てる能力を十分に発揮し、自分らしい生活を楽しくもろう事を前提として、支援に取り組んでいる。次に、法人内の協力体制を優れた点として着目したい。同一敷地内には従前の特養、ユニット特養、小規模多機能、認知症共同住居と、介護形態の違う事業所が隣接しており、強い協力関係が結ばれている。それにより、防災やレクリエーション行事を共に行うだけではなく、利用者にとって介護の選択肢が広がり、ニーズに合わせたサービスの提供が可能となった。児童養護から老人介護まで幅の広い取り組みを展開している法人内で、認知症に特化している当事業所の役割は大きく、今後も大いに期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時唱和して意識漬けしている。理念に基づいた介護が行われるよう心掛けている。	介護の理念3項目はホームのパンフレットや入居の手引きに記載し、本人や家族、訪問者にも判るようにホーム内に掲示している。職員は毎朝理念の唱和を欠かさずに行い、実践に活かせるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々を含めボランティアに来て頂いている。(そば打ち・理容・読み聞かせ・他 レクのボランティア様)資源ごみの協力、自立支援作業所の手作りパンを各自選んで購入	各種のボランティアの受入れの他に、ホームから出る段ボール等の資源回収として、また町が主催する文化祭に利用者の作品を出展する等、地域の一員として貢献に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の方にも避難訓練に参加していただき声かけながら誘導して頂ける。文化祭で日頃の作品を展示させていただく		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開き避難訓練の見学や批評いただく。行事などの活動内容の報告。地震・停電の時の動きでの対応と今後の取り組みの意見交換	運営推進会議は理事長を始め、消防団長や家族代表、ボランティア、隣接する他の事業所も参加して定期的に開催されている。議題もサービス内容から災害対策まで多岐にわたっており、サービスの向上に活かしている。	多種の参加により、充実している会議の進行を評価したい。今後は、討議された議事内容を関係各者に留まらず利用者家族まで配布し、サービス向上に繋げるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会にて情報交換をしている。(SOSネットワークに情報提供依頼等)	運営推進会議や集団指導、介護申請時での情報交換、制度の疑似解釈等々の機会、協力関係を構築・維持しており、信頼に基づいた連携が保たれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は安全のため施錠してる。日中は解錠で外の散歩は一緒に出る。何度も帰宅願望で出られている人いるが、見守り同伴している。身体拘束の勉強会を開いている。	身体拘束予防マニュアルを用意し、研修を定期的実施している。また具体的事例は会議や申し送り時に検討しながら、拘束や抑制の問題点について正しく理解し、ケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加。職員会議にて勉強会を開いている。どんなことが拘束なのか 振り返りをして各自自覚してもらう。理念の理解		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後必要なことと認識し勉強会に参加し学習していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より契約時の説明や改正の時は文書等で報告しご理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族様にお便りを出して面会時には、ご意見や不満がないか 話やすい雰囲気作り。面会の方にはご意見箱設置している。	利用者一人ひとりの生活の様子を個別の「きよみ便り」として毎月発信しており、それらを基礎に意見や要望を来訪時に聞き取り、または意見箱を活用してもらい、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケア会議を開き2ヶ月に1回職員会議開催。他ミーティング時にも意見交換。	毎月、ケア会議を開催し、その席上で多岐にわたる論議が行われ、また職員会議も2ヶ月毎に開かれて、職員は意見や要望、提案を発する機会が設けられ、意見反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の個性を大切に業務での助け合いや係活動に繁栄させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は出来るだけ参加を勧め 研修後には発表と共に 職員のスキルアップにつなげていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会への参加を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ご家族さまの情報を職員同士で共有し対応出来るように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることを家族様と一緒に考えて納得して頂けるような対応に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会議の中で 個別処遇の中から出来る事と出来ないことを見極めていく		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の考えや行動を尊重し 困っていることがあれば早めに解決していき 安心して暮らして頂く		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	きよみだよりで近況報告し、家族様と一緒に楽しめる行事を企画し 家族との関わりを繋いでいる		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の農協に買い物と一緒にいき 馴染みの方とお話しになって関係を保たれています。来訪されるボランティアの方とも 保てる。行きつけの理容室、美容室に出掛けられている。	地域的に生活の場が限られている事もあり、馴染みのストアや理髪店、美容室等と関連が強く、家族の協力を得ながら関係が途絶えないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団でDVD体操をしたり、歌詞カードで唄ったり皆で出来る事を行うようにしている。トラブルになりそうになったらフォローに入り共通の話題を 提供できている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要であれば相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の様子を見ながら、お話しを伺えるような環境やその人の表情や態度から察していく	日常生活を支援する中から、思いや意向を把握し、活かせるよう個別処遇会議で検討している。具体的には介護計画に取り入れながら、本人本位の生活が続けられるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査表や家族様からの情報などから生活歴にあったサービスに努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	関わりの中で見極めていく。日誌や毎日の様子に記録していき 変化があればミーティング等で情報の共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議で意見を出し合い 職員間の共通の支援が出来るように努めている。	毎月のケア会議で共通認識を確認し、本人の思いや希望に即した介護プランになるよう取り組んでいる。そのため介護日誌等の記録の様式も検討し、介護計画と介護日誌が連動できる様式を模索している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子・ケース記録など要点を簡潔に記載していき誰が見ても分かるようにしていく		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームで出来る事が限られて法人からワゴン車を借りたりして外出して行けた		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1度の読み聞かせボランティアや、歯磨き指導、訪問理容の方々の協力		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院時はなるべく体調の情報のお手紙を作成して持参して頂く。毎月往診は現在1名で体調変化の場合電話で報告指示仰ぐ。	本人・家族のかかりつけ医に対する継続希望は、意向を尊重し、情報を持参して家族が通院に同行しているが、最近では事業所の職員が通院の対応をする事が多くなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかり付け医に相談して指示を仰ぐ		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護要約を渡し日常の様子を提出。退院時は事前に相談員より情報提供もあり退院の説明にも呼ばれて同席させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	病院と家族様との連携で その都度相談しながらホームで暮らせるよう 支援している。急変時の救命処置意向確認書と救急隊に渡す情報伝達シートを作成。	医療的な判断が不可欠のため、看取り介護までには至っていないが、出来る範囲で最善を尽くせるように努め、介護や医療を含め本人に適切な対応が出来る様に取り組んでいる。重度化に対する指針も検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度消防職員の救命入門コースの指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練。利用者様各自の災害用のリュックを用意している。停電の時は、地元の業者様の協力もあった。	火災における避難訓練を同一敷地内の施設と協力し、年に2回消防署の指導により実施している。食料等の備蓄品も用意させており、冬季の暖房装置については器種や購入時期を母体法人が検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し節度を保ち丁寧な言葉、態度で接する努力をしている。	ケア会議の徹底で、利用者一人ひとりの個性や人格に寄り添ったケアを目指しており、礼節に満ちた介護で臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いはずせず選択出来るように何事も聞き入れて 自己決定を尊重しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを優先し 見守りせかさずその方に寄り添える支援を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面・整容の支援。定期的に訪問整容サービスを提供できカットやパーマやヘアカラーをされている。好みの服選び		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合わせて提供できている。盛り付けや片付け、食器拭きも交代でお願いしている。海苔巻き、いなり、餅作り、たこ焼きなどなど出来る事は一緒に作っている。	調理や後片付けの全行程でお手伝い等をお願いし、無理のない参加で和やかな食事風景となっている。またタコ焼きなどの趣向を凝らした全員参加型のお楽しみも用意し、みんなで楽しめる食卓となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、水分量の把握し記録。水分摂取苦手な方には、好みを聞きながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。週2回ポリドント施行する。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サインを見落とさない。日誌の記録からパターンを見ていき自立出来る方は継続し トイレ誘導が必要な方はスムーズに行ける環境作りだが、トイレの数が限られている。	排泄はトイレで行う様に心がけ、時間誘導や排泄の仕草やサインも見逃さず、無理のない排泄になるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳や飲むヨーグルト、又は豆乳を提供している。自立排便を目指して 水分や体操、室内廊下歩行を行っている。パターンを把握する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴をしていただき さらに利用者様の都合で入ることも有り その方に添った支援をしている。	週に2回の入浴を基本としているが、お湯は毎日入れており、どのような場合でも入浴できるように努めている。また、隣接するデイサービスのお風呂が使える時もあり、時間や場所に変化をつけて入浴が楽しめる様に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ここの生活習慣に合わせて入床していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用を薬の説明書から把握。変化があれば速やかに医療機関や家族様に連絡。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事に合わせて外食やお弁当など楽しめる。個別に添ったり 文化祭に参加で作品作りで気分転換を試している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気持ちに添って一緒に外へ出掛ける。家族様にも協力していただき、買い物や外食などの機会を作っている。	春や秋の季節のドライブの他に外食での外出もあり、また近隣への列車の旅も企画、実行し、利用者や家族に好評を得ており、敷地内の散歩や買い物での外出から、近郊へのお出かけ企画まで閉じこもらない介護を実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望と判断力に応じて所持されている方もいます。家族様の理解を得て買い物支援をされている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自身で電話もされる。ボランティア様へ礼状も出すこと有り		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険、事故のないよう配置に気を付けている。歩行者もあり手の届くところに設置の方もいてつまづかないよう注意。各部屋の夜間のテレビの音量に気を付けている。	平屋でゆったりと造作された建物は、居間や食堂を中心として採光が豊かで、温度や湿度も適切に管理されており、季節に富んだ装飾も見られ、心地の良い共有場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中でも家具の配置を工夫してパズルなど自分で出し入れできる。休憩用のイス類も景色を眺められるようにを設置し利用していただけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で居心地の良い空間を目指す。家具も使い慣れた物や写真で落ち着けている。	居室にはクローゼットが用意され、また馴染みの家具も置かれており、壁に貼られた家族写真も用意され、自分の部屋として寛げるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に手すりなどを使いながら個人の意志や自立しやすい環境の提供。		